



種彦錯國物語

九編
伊勢之卷前編上



一陽齋画



かんなん法園物語り
伊せれ巻末海の上
さうはくしうま
しうまはくしうま
柳亭の巻
四巻
せんま
画

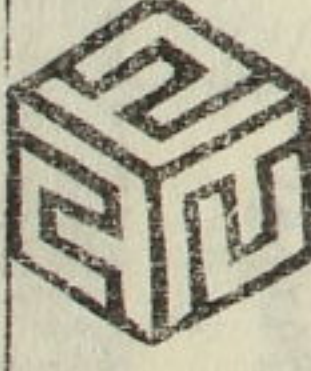


西政丸

戲作者の魁匠柳亭翁往年田舎も都も流行ありゆりとのる染色の
藤袴と綴目とく紫の雲隠ありも茲も抑翁の草造紙永壽堂
梓行せし船庵と初と本店より権之の鏡の條穂も終ま其切味の
鋭くも滑川の水折てたも播下名なきもの松も昔時の松の是も若
木と植つた人と栄久堂のまわれるも予も師匠別れてよる書作る支も懶惰
と五六年筆を断るも終るも朋友たれも打棄果んはよとぬると諫られて又
此やてる系あるうけてもとる名作る師匠の後續紹あり尾籠ぐま
あて當時翁が著述ま物と再用めて聊取捨し勉強伊勢巻二套
とま故つが手お成るといと更につが作あわも但付録の遠江の賣
是ハ公羽の作よわ其積が園の根分を彼古市の風雅話の千種の散
し暮春秋葉の尻よりむつる花形のほせとあつるせよひまれ他自あ
菊の花角力外の造紙お負るるの故人もよる喜ひゆるん

弘化五年
戊申孟陬

笠亭仙果謹述





竹花屋

竹花屋手代徳七が妻
於玉



甘四

木偶舞
あ

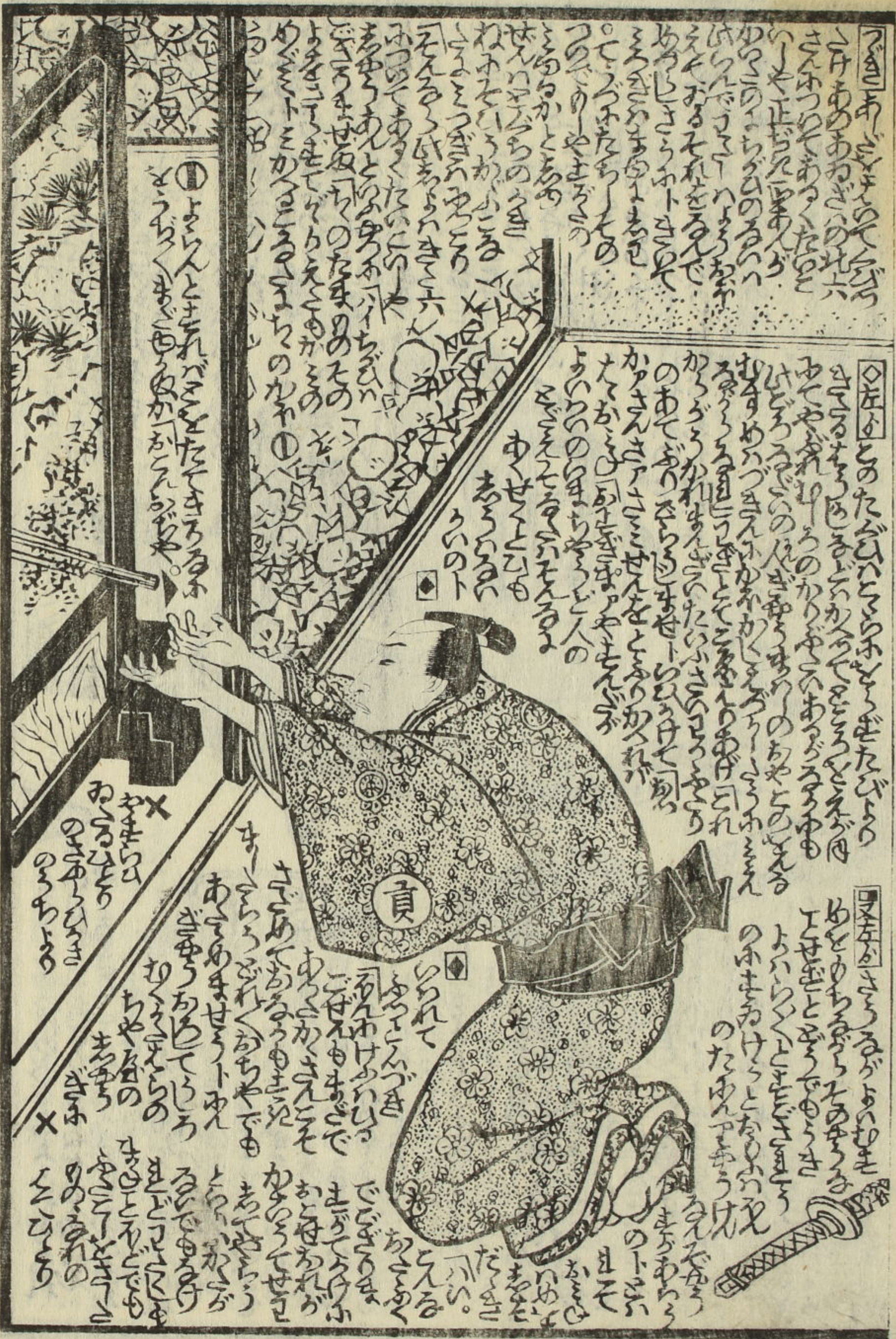


寒風里茶及女於甜



落正
貞調

正直正巷

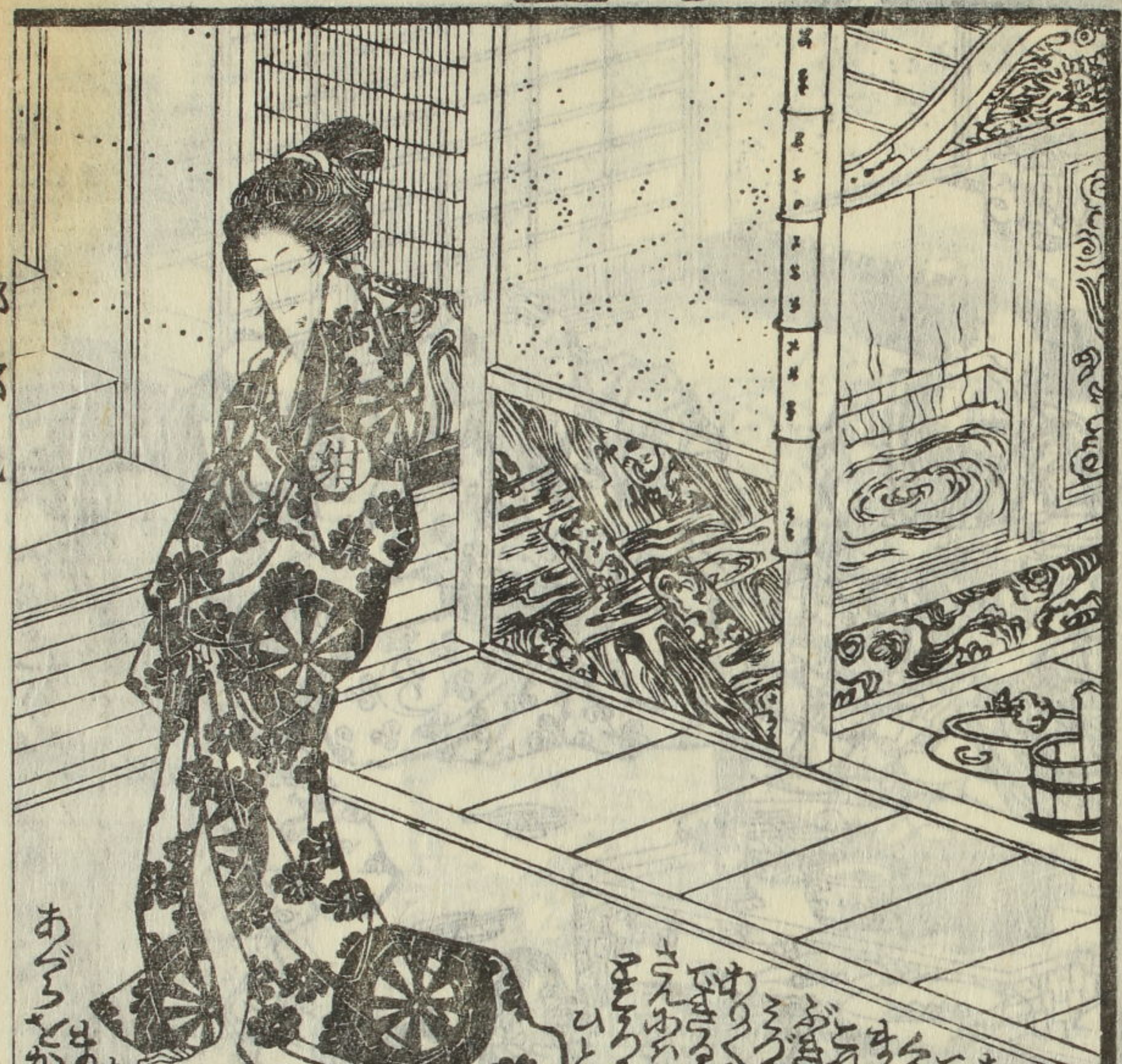




詰園物語

伊勢之巻
第百下





下下乙

あつた... 補綴... 仙果... 豊國... 版堂久榮

弘化五年
戊申春發兌

版
新編下冊
新編下冊
新編下冊

補綴 仙果 豊國

版堂久榮

政政



下
七

十



下
七

Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the illustration on the right page.



Vertical columns of handwritten Japanese text surrounding the illustration on the left page.





此の物語は、昔の事だ。ある時、ある村に、
 一人の男が、女を娶った。その女は、
 非常に美しい女で、男は、
 彼女を非常に愛した。

玉は、鯉の鱗を、
 取って、それを、
 煮た。



徳は、鬼の鱗を、
 取って、それを、
 煮た。

鬼は、徳の鱗を、
 取って、それを、
 煮た。



14
3157
46 (4E)